

2010年度JICA青年研修 「インドネシア・ 都市環境管理」コース

対象国：インドネシア

研修員数：16名

研修期間：2010年11月9日（火）～2010年11月26日（金）18日間



教科書で見る、世界遺産のボロブドゥール。パティックと呼ばれる美しい織物。常夏の美しいビーチと豊かな動植物。大豆を発酵させてつくる、納豆によく似たテンペ。“インドネシア”と聞いて思い浮かぶものは多く、日本にも馴染み深い国のひとつです。

暖かなインドネシアから、日に日に冬へと向かう十勝・帯広へ。16名のJICA研修員が、インドネシアで大きな問題となっている、**ゴミ処理**や**河川の水質管理**などを学ぶため来日しました。

まず、インドネシアでは、燃えるゴミ、燃えないゴミ、更には金属や電池すら混ざった状態で捨てられているのが現状だということで、日本で行われているゴミ処理の流れを紹介しました。一般家庭において整然と分別が行われている様子を見た研修員は、「**市民の意識が徹底されていて驚いた。**」と話していました。そして、中間処理、最終処分、3R（Reduce：減量、Reuse：再使用、Recycle：再資源化）について学んでいく程に、家庭レベルでの取り組みがいかに重要かということを感じ取っていました。



また、インドネシアでは、各企業で処理されている一部の工業廃水以外は、生活廃水も含めてそのまま河川に流されているため、なぜ河川の水質管理が必要なのか、水質を保持するための下水処理場の必要性についても学びました。

同時に、**民間企業**や**スーパーマーケット**による環境への取り組みや、**主婦**による生活の中でできるエコ活動、農業地帯の十勝だからこそ期待される、規格外農産物や家畜糞尿等の**未利用資源**の活用、緑で街を囲む**帯広の森**、行政・民間レベルの**環境教育**、**NPO**による国立公園での環境保全活動等についても学び、帰国後の業務に活用できる具体的事項をレポートにまとめました。

毎日の研修は、学ぶべき項目が多いため、研修員も一生懸命。その中で、休日に行われた手巻き寿司等のたくさんのプログラムを体験した**日本文化体験**、十勝のおいしい食材を楽しんだ**ピザづくり**体験、抹茶と和菓子と美しい着物を満喫した**茶道**体験、初めて触れた**雪**、そして講師・関係者の方々、街で出会う市民の方々との触れ合いは、日本で過ごした温かな記憶として、研修員の大切な思い出となりました。



ご協力いただきました皆様に、改めてお礼申し上げます。引き続き、帰国研修員が一步ずつでも前進し、学んだものを活用してくれるよう応援したいと思います。

ご協力いただいた講師・関係者の皆様（敬称略・順不同）

八重柏泰志コースリーダー、帯広百年記念館、卯野興治・睦子ご夫妻、帯広市清掃事業課、株式会社ウインクリン、十勝環境複合事務組合、生活協同組合コープさっぽろかしわ店、帯広市環境課、帯広市稲田浄水場、帯広市帯広川下水終末処理場、帯広友の会、財団法人十勝圏振興機構、帯広市みどりの課、NPOひがし大雪自然ガイドセンター、青年海外協力隊北海道道東OB会、株式会社満寿屋商店、裏千家淡交会帯広支部

— ありがとうございました 😊 —